

## 【2022年度 FD・SD委員会 事業計画】

委員長校 : 神戸学院大学

副委員長校: 兵庫大学、神戸薬科大学

委員校: 芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和女子大学、神戸大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫医科大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、兵庫大学短期大学部  
計25校

### <目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、闊達な意見交換の場を創出する。

上記の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

<内容>取組課題⑥に対する「個別取組」は、下記の通り。

#### 1. 加盟校間でのFD・SDセミナーの公開

加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・「大学運営」に関する科目の受講支援等

#### 2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催

加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

・FD・SDトップセミナー等

上記の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5ヵ年において段階的に取り組む。

期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

### <期待される効果>

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		予算額
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

**【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(課題⑥取組1-1)】**

【⑥取組1】達成目標	各年セミナー5件以上
【⑥取組1】活動指標	参加者数100人以上／年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【⑥取組1-1】	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。			
課題を解決する 取組概要 【⑥取組1-1】	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 1、加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開			
活動指標 【⑥取組1-1】	公開セミナー開催数:5件以上／年			
内容 (計画)	<p>「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、以下内容について計画・実施する。</p> <p>1)加盟校のFD・SDセミナーの情報を収集、コンソホームページ上で提供する。          (1)本仕組みを活発に運用していくため、半年に1回程度、委員校への協力依頼を行う。          また、加盟校からの公開依頼がある場合は、随時、対応を行う。          (2)加盟校からの情報提供方法に、Webフォームを取り入れる。          情報提供の方法を簡便化することで、更なる利用促進を図る。</p> <p>2)委員会・各セミナー等において適宜、本事業について理解と協力を求めていく。</p> <p>3)年1回、FD・SDセミナーの実施内容に関するアンケートを実施。          加盟校のニーズに合うセミナーの公開と、参画校の拡充に取り組む。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	加盟校からのFD・SDセミナー情報の提供方法について、Webフォームを取り入れ、手続きの簡便化を図る。セミナー情報を提供しやすい仕組みを作ることで、本仕組みの利用のさらなる活性化を目指す。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	0円			
自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	
■自己評価基準 (対到達目標) 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)				

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(課題⑥取組1-2)】

【⑥取組1】達成目標	各年セミナー5件以上 □
【⑥取組1】活動指標	参加者数100人以上／年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
達成目標 【⑥取組1-2】	加盟校から4大学以上・10名以上が受講			
課題を解決する 取組概要 【⑥取組1-2】	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 2、「大学運営」に関する科目の受講支援			
活動指標 【⑥取組1-2】	大学教職員の受講動機を高めるための周知活動をおこなう			
内容 (計画)	<p>1)「大学運営」科目概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目名称: 大学運営</li> <li>・開講日程: 2022年度第3クォーター土曜日の13:00～16:00(予定)</li> <li>・開講場所: 関西学院大学大阪梅田キャンパス(アプローズタワー14階)</li> <li>・シラバス: 別紙</li> </ul> <p>2)取組内容 周知活動として以下をおこなう(いずれも2022年6月予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①大学コンソーシアムひょうご神戸事務局を通じて各大学に受講のご案内をお送りする</li> <li>②関西学院大学経営戦略研究科のwebサイトにてプログラムの周知、受講の案内をおこなう</li> </ol>			
新しい試み等 (事業計画に記載)	特になし			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	0円			
自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	<p>           ■自己評価基準 (対到達目標)            4: 当初計画を上回って達成            3: 当初計画を達成            2: 当初計画をやや下回った            1: 当初計画を下回った         </p> <p>           ■自己評価基準 (対継続性)            4: 本プログラムは継続すべき            3: 本プログラムは継続しても良い            2: 本プログラムの継続には改善が必要            1: 本プログラムは中止すべき         </p>			

【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(課題⑥取組2-1)】

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上
【⑥取組2】活動指標	開催数:3回以上/年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
達成目標 【⑥取組2-1】	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。
課題を解決する 取組概要 【⑥取組2-1】	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 1、加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催(FD・SDトップセミナー)
活動指標 【⑥取組2-1】	開催数:1回以上/年

内容 (計画)	<p>〈FD・SDトップセミナー〉          テーマ(仮):「GIGAスクール構想がもたらす大学教育への影響 -次代の学生像を考える-」          初等中等教育のコロナ禍におけるオンライン授業実施で「GIGAスクール構想」が3年前倒しになった。タブレットをはじめとしたICT活用など、授業方法や学習形態の変化は今後の高等教育にも大きな影響を及ぼすと考えられる。          ① 総論: 高等教育のあり方、とりわけ大学におけるICTを利活用した教育の推進などについて、中央教育審議会等の関係者から講義いただく。          ② 各論: 兵庫県内のICT活用等の実践を初等中等教育現場の関係者から講義いただく。          ③ 総括: 次代の学生像について          同セミナーを実施することにより、兵庫県全体の高等教育の改革に資する情報共有の場を創出するとともに、大学幹部および教職員の資質・能力の向上を図る。</p>
------------	---

新しい試み等 (事業計画に記載)	<p>新しい取り組みなどを記載          ・高等教育のみならず、初等中等教育との接続を俯瞰する視点から、中期的に計画立案等が必要な喫緊の課題をテーマとして設定する。          ・専用ポスター等を作成し、より多くの大学の参加を促進する</p>
---------------------	--

事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	500000円			取組2-1、2-2 の合計

自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	

■自己評価基準  
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準  
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	
------------------------------------	--

**【2022年度 FD・SD委員会 事業計画(課題⑥取組2-2)】**

【⑥取組2】達成目標	各年参加者数50名以上
【⑥取組2】活動指標	開催数:3回以上/年

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標 【⑥取組2-2】	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。		
課題を解決する 取組概要 【⑥取組2-2】	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 2、「内部質保証システム」構築に向けた取り組みの推進		
活動指標 【⑥取組2-2】	セミナー・勉強会開催数:2回以上/年		
内容 (計画)	<p>「内部質保証システム」をテーマとしたFD・SDセミナーを開催し、加盟校での啓発活動を行うと共に、実務的な勉強会を実施する。</p> <p>基本的な活動内容 1)「内部質保証システム」をテーマとしたセミナーや勉強会の開催(例えば、IRや認証評価に関するもの)</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)			

事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	500000円			取組2-1、2-2 の合計

自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	

- |   |  |
|---|--|
| <p>■自己評価基準<br/>(対到達目標)</p> <p>4:当初計画を上回って達成<br/>3:当初計画を達成<br/>2:当初計画をやや下回った<br/>1:当初計画を下回った</p> | <p>■自己評価基準<br/>(対継続性)</p> <p>4:本プログラムは継続すべき<br/>3:本プログラムは継続しても良い<br/>2:本プログラムの継続には改善が必要<br/>1:本プログラムは中止すべき</p> |
|---|--|

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に 反映)	
------------------------------------	--